

秋田大学教育文化学部附属小学校における 「総合的な学習の時間」の開発研究の系譜[†] －「総合的な学習の時間」設定前を中心に－

浦野 弘*・佐藤 友菜**

秋田大学名誉教授*・元秋田大学学生**

秋田大学教育文化学部附属小学校における平成3～10年度の「フリー学習・活動」に焦点を当て、「総合的な学習の時間」の開発研究の足跡を示している。その結果、教科との関連、現代的な教育課題、さらには日常生活との関連をもとに、新学習指導要領において求められている育成すべき資質能力の検討の糸口が改めてあることを示している。

キーワード：総合的な学習の時間、フリー学習・活動、開発研究、子ども中心

1. はじめに

本研究は、秋田大学教育文化学部附属小学校（以後、附属小学校という）における総合的な学習の時間の開発研究の経緯を概括することを、目的とする。文部省から小学校教育課程研究校の指定を受け、平成3・4年度の2年にわたり、教育課程一般についての研究を進めたことが、起点の一つである。

第一筆者は平成4年に秋田大学に赴任し、それ以降において附属小学校の総合的な学習の時間の校内研究や公開研究協議会等に研究協力者あるいは共同研究者として参加し、そこでの配付資料を収集保管してきた。その資料を第二筆者が整理し一覧を作成し、第一筆者が実践に関わってきた手持ち記録等を手がかりに加筆整理をし、まとめたものである。

本稿では、平成3年度から平成10年度までの8年間の附属小学校での開発研究の歩みの概要を一覧として提供すると共に、総合的な学習の時間の創設に

関わる初期の時期に焦点をあて、当時の研究概要を示し、今後の研究参考資料として提供することを目的とする。

2. 公開研究協議会・紀要等の資料にみられる8年間の総合的な学習の時間の研究・実践の変遷

2-1. 実践研究の概観

8年間の歩みを、附属小学校研究紀要や公開研究協議会での配付資料等に記された特徴的な文言を抽出して、「学習時間」「研究主題」「研究の重点」「目指す子どもの姿」「関わり方」「単元構想」等の視点から、年度毎に特徴を整理したものが、表1である。

附属小学校における総合的な学習の時間に関わる研究は、平成3年度に教育課程一般の研究指定を受け、従来の教育課程とは異なる位置づけとして無い「フリー学習・活動」が発足したところにある。開発研究の指定終了後も、教育課程は従来通りのものを踏襲したため、この「フリー学習・活動」を、当面教育課程に正式に取り込むことが困難であり、次の学習指導要領の改訂を視野に入れ、公立学校でも実践可能な教育課程の例示やその内容の提案に主眼が置かれていた。

その後、平成10年度に告示された新学習指導要領に「総合的な学習の時間」が示されたことにより、

2019年1月7日受理

[†]Hiroshi URANO* and Yuuna SATOH**, Transition of the research and development of "the Period for Integrated Studies" in the Elementary School attached Faculty of Education and Human Studies, Akita University: Focused on pre-"the Period for Integrated Studies"

*Professor Emeritus, Akita University

**Former Student, Akita University

県内における先進的取組として知名度のあった「フリー学習」から「はばたき学習」に名称を変更し、現在まで継続している。名称の変更時期と相まって、当初の研究の主たるテーマや課題は、教育課程上の各教科等からの授業時間数の供出等の形式上の問題、学習テーマやその内容という問題意識から、学習を通して育成すべき資質能力という視点に大きくシフトしていく時期となった。

このようなことから、本稿では、「はばたき学習」に名称が変更される以前の初期の取組に焦点をあて、報告を行う。

2-2. この時期の「フリー学習・活動」の特徴

平成3年度に研究指定を受けて設けた「フリー学習・活動研究」に端を発し、多少の変更はあるものの「フリー学習・活動」あるいは「フリー学習」という名称で続く。この「フリー学習・活動」という名称は、秋田県内の小学校における総合学習研究の先駆けとして公開研究協議会を始め注目をあび、秋田県教育委員会の「ふるさと教育」にも同期する。

この時期のフリー学習・活動の目標は、「具体的な活動や体験を通して、自分と社会、自然とのかかわりに関心をもち、自らの課題を追求していく過程において、豊かな生き方を志向しながら、学び方や総合的な学力を身に付け、自己教育力を育成する。」とまとめることができる。この期の公開研究協議会における配付資料には、教育課程上、単独で十分な授業時間を設定できないために各教科から供出する授業時間数と共に、その学習内容の関連を示す工夫

が多く記載されている。このような授業時間数の供出状況の資料は、平成10年6月の公開研究協議会の資料まで続くが、それ以降には提示されていない。

3. 当時の研究と実践の検討

以下、附属小学校での取組を、研究の枠組み、研究の変遷、授業時数の設定等を手がかりに、各教科の学習との関連について検討を行う。

3-1. 当初の研究枠組みとその名称の変遷

当時の文部省から小学校教育課程研究校の指定を受け、平成3・4年度の2年にわたり、「教育課程一般」についての研究を進めている。その教育課程一般の研究における重点は、昭和59年度より進めてきた“自己教育力の育成”の研究実践を背景に、「一人一人がたえず自己の充実、向上をめざして意欲的に学び、豊かな情操と旺盛な気力、体力を兼ね備え、創造性に富んだ実践力のある子どもの育成」を基本目標として研究を開始している（平成4年9月公開研究協議会当日配付資料）。

同じ平成4年9月公開研究協議会当日配付資料には、教育課程一般の研究を推進するにあたり、「自己学習を成立させるためには、学習の主体である子ども自身の学習意欲や学びの仕方に対する理解といった問題と、こうした自己学習を支える外的要因としての学習情報環境（指導者も含む）の充実と創造といった二つの側面から見ていく必要があるだろう。」と記述されており、翌年の平成5年9月公開研究協議会当日配付資料では、より整理をされ、「本来的

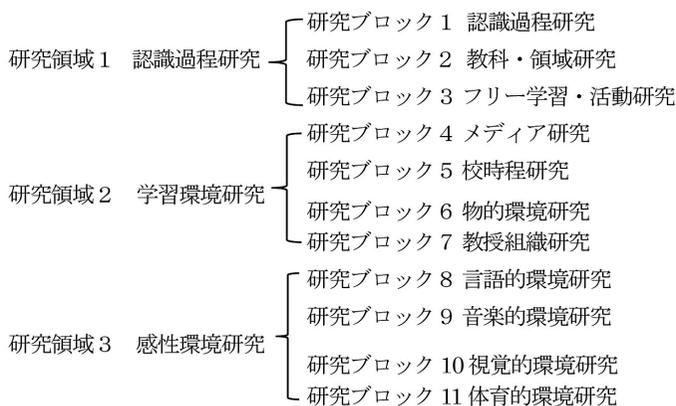


図1 教育課程研究の三領域、11ブロックの構成（平成4年9月公開研究協議会当日配付資料より）

な学習の主体である子どもの自己学習を成立させるためには、子どもの側に立つ学習を推進するために、子ども自身の学習意欲とそれを取り巻く認識の過程を理解する事、また、自己学習の成立を支援する学習情報環境の整備、さらに、子どもの個性や創造性の基盤ともなるべき感性をはぐくむ場の創造といった3つの面から考える必要がある。」と述べられている。

研究指定校としての研究体制は、図1に示すような、三つの研究領域、11の研究ブロックを設定し、実践研究を推進している。研究ブロック2「教科・領域研究」と並置するところに「フリー学習・活動研究」が位置しており、新たな教科・領域としての「フリー学習・活動」を目指していたことが推測できるが、それを裏付ける十分な資料は、現時点では、収集できていない。

この「フリー学習・活動研究」は、研究指定が終了すると共に、「研究」という文言が取れ、子どもの学びである「フリー学習・活動」という創造的な学習の場を構築することを目指し、教科・領域における指導・支援といった教育活動の一貫に位置づけるようになる。さらに、平成8年度には、「活動」という文言を取り、「フリー学習」という名称に変更される。

さらに、平成10年度からは、「はばたき学習」という名称に変更される。その理由としては、平成10年度公開研究協議会当日配付資料には、「『フリー』の名称が独自性に乏しいこと、総合的な学習の時間帯の名称や単元を構成する時間の名称等を整理する必要があった。」と述べられている。なお、「はばたき」というのは、附属小学校のシンボルである「はと」から連想されることから命名されたものである。」と、変更の経緯が記されている。

3-2. フリー学習の研究経緯

ここでは、第一期の中で、「フリー学習・活動」の研究主題や研究の重点に焦点をあて、その変遷を述べる。

「フリー学習・活動」の研究・実践が開始された初期の研究主題は、「子ども一人一人の自由で主体的な学習意欲に基づいた自己表現の場の創造」というものであり、本格的な研究・実践へ向けての実施時間の問題やその内容面など基本的な問題の追及が当面の課題であった。

表2 平成3～8年度の研究経緯

年度	研究内容
平3	文部省「教育課程一般」研究指定校（1年次） ・子どもの一人一人の主体的な学習意欲と、個々の興味・関心に応じての自由な自己課題の追求を行うための学習全体の構想の在り方と、それを行う上での時間的、空間的、及び物理的な諸問題をとらえ、具現化に向けての組織化と実践。（10月下旬以降、3～6年：月～土の朝学習30分）
平4	文部省「教育課程一般」研究指定校（2年次） ・学年ごとのテーマを設定してのフリー学習の実施。各学年ごとの年間活動計画の作成。
平5	・公開研にてフリー学習・活動を授業時間、低・高学年ごとの学年フリー学習・活動年間計画の提示。開かれた学校（内にひらく、外にひらく）に向けてのゴール・タイム・スペース・マンフリー体制とその具体的な方策の提示。 ・授業時間帯の変更（1～6年、月～金の朝学習30分及び土1校時（3～6年のみ））
平6	・教科・領域学習とフリー学習・活動の有機的な結びつきによる年間単元一覧の作成。A型・B型・C型学習の設定。 ・新校時程の試行（H6、3学期以降1～6年、1校時。3～6年は月～金、1～2年は火～金）
平7	・子どもの活動からの学年年間計画の見直し（見直しの具体的な視点の提示） ・校時程の修正（1校時フリー学習前に15分の時間帯設定）
平8	・「フリー学習から、教科・領域学習における授業構造の見直しを図り」ながら、郷土、国際、福祉、環境、性等の教育内容からの枠組みを作成する。 ・「フリー学習の基本4類型」をもとに、より子ども側に立った学習構造を模索した。

その変遷を簡潔に整理したものが、平成9年度公開研究協議会当日配付資料の一部を修正して記した表2である。

平成3年度に、それまでの教科を中心とした学習指導法の改善研究によって未解決であった「一斉指導法の改善」と、「学際的教育内容に対応した教育方法の開発」という2つの課題に対応するために、「子どもの一人一人の主体的な学習意欲と個々の子どもの興味や関心に応じた自由な自己課題の追求を行う学習時間」という位置づけで設定された（平成9年度公開研究協議会当日配付資料）。具体的には、毎朝30分間のいわゆる「朝自習（学習）の時間」を活用し、教科の学習では実現できないようなものをめざし、子どもの自由な学習時間として、学年単位のティーム・ティーチングの体制で実践を試みているこの実践が教師間での子どもの学びを捉える意識

の共有化に貢献し、意識の変革へと結びついたらと考えられる。

平成4年度には、学年チーム・ティーチングによる学習テーマの設定と各学年ごとの年間指導計画が作成されるようになる。実際には、各先生方の特技を持ち寄り、その中から協同で実施可能なものを抽出し、試行していたという状況であった。すなわち、内容的には学年を越えた学校としての一貫性にはそれほど配慮はせずに、まずはできるところから試行をしてみるという実践の積み重ねであった。

平成5年度は、研究指定の枠組みが無くなり、本格的にフリー学習・活動の研究・実践が実質的に開始した年度と言える。平成5年9月公開研究協議会当日配付資料には、各学年から1ヶ月弱から2ヶ月に及ぶ単元の実践報告が添付されている。また、**表4**の平成5年度の箇所にあるような「フリー学習・活動」の年間指導計画が初めて公開提示されている。すなわち、学年毎の単元の継続性あるいは各単元の内容等が、公開研究協議会の参加者との検討が可能な程度まで煮詰まり、研究主題に沿った学習の構造を模索し、具体化に向けての組織化とその実践の方向を探ったものとなりつつあった時期と言える。

平成6年度には、「フリー学習・活動」と各教科・領域との関連を図り、より充実した実践を目指す気運が高まってきた時期である。そのために、各教科・領域と「フリー学習・活動」の相互の関連的な結びつきをチェックしつつ、年間単元の見直しを図っている。すなわち、教育課程上の「フリー学習・活動」の年間指導計画の再策定と共に、各教科・領域の年間指導計画の見直しを図り、「フリー学習・活動」への各教科からの供出授業時間数と単元別時間配当案（供出による不足をどのようにカバーするかという意図のもとに作成されている）も提示している（**表4**に各教科からの供出授業時間数を単元別に集計したものを示している）。また、この後に始まる学校週5日制を視野に入れ、時間割上は、3年生以上では月～金曜日の1時間目に設定し、週あたり5時間で35週実施するとし、計175時間と教育課程に位置づけが可能になるように配している。

また、この年における特徴的な取組として、「フリー活動・学習」を、各教科・領域との関連を踏まえてA、B、Cの3つの型に分類したものを公開している（**表3**参照、平成7年度公開研究協議会当日配付資料より）。

表3 フリー学習・活動の3つの体形

A型学習	学習フリー学習・活動と教科・領域との関連を図った学習。フリー学習・活動と平行して教科学習を行う総合学習的なもの、フリー学習・活動の前後に教科学習を位置付けた教科の深化・発展を期待できるもの等、学年や教科・領域によって多様な工夫が展開が可。 教科のねらいを達成するためには、活動内容に制限があるが、教科の時間に含まれない時間（はとの時間）には、子どもの活動内容・方法を存分広げることができる。学校教育の分野に属し、教師の柔軟な発想が問われる。
B型学習	学習内容・方法のすべてを子どもが決めることのできる学習。主に休日に子どもが調べたり、体験したりする活動で、今後、ゆとりの時間を活用した家庭・地域教育によるところが大きい。（隔週土曜日の過ごし方に期待あり）
C型学習	A型とB型の間中に位置する学習。教科や領域との関連を図っているが、その中に教科や領域のねらいが含まれない学習。ある決められた範囲内で、内容と方法を自己選択できる自由な学習である。

当初、B型学習を深く意図し、しかも学年単位でのチーム・ティーチングの体制（担当する4人の教員の得意とするものが対象になりやすく、チームの個性が強まる可能性も有していた）において子どもの興味関心に即した素材からという発想は、教科学習の時間を含むという体制により、教師発想の提案、あるいは導かれた子どもの発想という方向に強くなりだすことにもなった。

平成7年度になると、「フリー学習・活動」を教育課程に位置づけるため、「活動」という名称を外し、「フリー学習」とし、さらに学習の準備のための時間を別枠で設定している。上記のことを意識し、子どもの立場に立って、学年ごとの年間指導計画を見つめ直す作業が行われ、年間指導計画の再修正を学年ごとに行なっている。

平成8年度には、前述のように平成6年当時までのテーマ設定には、担当者の得意とするものが取り上げられ、学年チームの個性により、その内容が決まってしまう、学校全体での一貫性に欠ける傾向にあった。その改善をも意図し、現代的な教育課題である「郷土・国際・情報・環境・福祉・性」等による枠組みを作成して検討を開始している。また、より子どもの立場に立った学習を実践するために、ジグソー学習等の学習指導法の導入も試みている。

平成9年度には、平成9年6月公開研究協議会当日配付資料において、これまでの6年間の「フリー

学習」を総括している。年間の学習計画を作成する際に、学習内容を横断的に見つめ、他教科、領域との関連を図る詳細な図が例示されている（しかし、以後にそれに近いものは示されていない）。また、年間計画を策定する際に、前年度の実践資料を参考にする一方で、当該する子ども達と一緒に作り出すという点も強調している。すなわち、前年度から開始した、フリー学習の内容研究は、「感性・体験、情報、郷土・国際、平和・福祉・生命、地域・環境、健康・性・エイズ」等と広がり示され、それを進めて行く事が述べられている。

平成10年度には、学習指導要領の改訂作業を見据えて、それまでのフリー学習の一層の見直しが図られ、「はばたき学習」と名称を変えて総合的な学習の研究・実践を続けることになる。平成10年度の研究主題は、平成9年度までの「従来の教科の枠では対応できない学習内容の広がり、そして子どもたち一人一人の得意な方法、取り組みたい方法が計画される学習方法の多様化に応じる」とあり、学習観は大きく変わることなく、これまでの研究主題を引き継いでいることがわかる。すなわち、これまでの研究方法や内容に重点を置いてはいるものの、全体の研究の研究テーマに即した育てたい資質能力の模索へとシフトしている。その詳細は、本稿とは別に考察する予定である。

3-3. フリー学習の授業時間の設定の変化

平成3年度からの実践では、教育課程には位置づけることができず、月曜日から土曜日までの毎朝の始業前の30分間、いわゆる「朝自習（学習）の時間」を活用して行われている。

平成5年度になると、月曜日から金曜日の朝学習の時間の30分に加え、3～6年生は土曜日の1校時にもその実践が増える。始業時前のものであり、教育課程に明確に位置づけられるものではなかったため、その実施時間の確保は不安定でもあった。

そこで、初めて**平成6年度**からは、翌年に始まる学校週5日制の月2回実施を見据えて、3～6年生は月曜日から金曜日、1・2年生は火曜日から金曜日のそれぞれ1校時に位置づけ、名称からは「活動」の文字を取り、「フリー学習」と改め、学習というイメージの定着を目指している。

さらに、**平成7年度**には、1校時の「フリー学習」の前に15分の準備時間を設定している。この15分の

設定意図は、フリー学習が校内の多様な場所で活動するという前提から、その移動時間等の確保という意味合いが大きい。

3-4. 年間単元の精選

平成5、7、9年度を取り上げ、年間の単元配置と各教科等から抽出した授業時間数を整理したものが**表4**である。

「フリー学習・活動」を開始した当初は、活動素材となる実践等が少ないため、より多くの実践や経験を蓄積するということが研究遂行上で重要であったと考えられる。そのため、必然的に1年間で扱う単元数が多くなる。

一方で、平成5年度の年間活動計画を見ると（**表4**参照）、どの学年にも、「学年・学級づくり」という単元名があり、特に中、高学年になると、「はく、わたしの運動会」「めざせ東部地区チャンピオン」「ありがとう附小」などといった、学校行事の一環と判断できる単元名も多く、それらが「フリー学習・活動」の範疇となっている。これらは、平成10年度以降に、教育課程として位置づける作業を通して、このような単元から精選が始まり、厳選されていく。

その中で、例えば、平成5年度公開研究協議会付資料には第5学年の実践「学年チャンピオン大会」では、次のような事例が示されている。「子どもたち一人一人の特技や趣味などを大会形式で発表し合い、友だちのよさに気付き、お互いの理解を深めたり、この発表を通して、自分らしさを表現し、今後の学校生活に自信をもったりすることなど」を目的として単元設定をしている。学校生活において、個々の子どもの個性、その子らしさなどは様々な機会が発揮させることは可能であるが、個々の子どもの趣味や特技などを友達同士でも相互に知ることは少ない。また、学校生活以外の時間で様々な稽古ごとであるいは、知られざる一面といったものを披露する機会もあまりない。そこで子どもたちが自らの特技や趣味を、ゆっくりと時間をかけて披露する機会をつくるという視点から、子どもの願いや夢に沿う内容としてそれらも取り上げている。その大会の運営や準備等は、実行委員会を組織するなどして、子どもたち自身の手で行うような工夫が見られる実践が報告されている。しかし、詳細を見ると、準備や練習は学級内で構成される数人のグループで行われており、学級の枠を越えたグループとしての取組には

表4 「フリー学習・活動」の年間計画一覧

3年フリー学習年間計画

平成5年度		平成7年度												
テーマ		計	国	社	算	理	図	音	家	体	通	特	ト	
きょうからななま		#											2	8
楽しい遠足「7月の力を合わせよう」		#		3										7
メロディー大好き「音楽を楽しもう」		#						2						8
ふしぎたんけん		#			5									5
		#	3			2								#
ふしぎたんけん		#	6	3									1	2
ずてきな物語を紹介しよう		#	#											3
むかしのくらしを調べよう		#				6								6
		#		6	3									6
		#				6								5
むかしのくらしを調べよう		#	2	3										#
思い出をアルバムにしよう		#	8											2
		#	#	#	#	2	2	0	0	5	#			#
		年間総時数：149												

平成9年度														
テーマ		計	国	社	算	理	図	音	家	体	通	特	ト	
今日からななま		#											1	#
クイズチャンピオンになろう		#			5									#
たずねよう図書館博物館児童館		#	2	8										7
みんななかよし3年生		#						2						1
		#												#
夏休み作品発表会		#	7	4									1	2
楽しい絵本を作ろう		#	#					2						3
学校のまわりをたんけんしよう		#	8				6							2
めんだいすき		#		4	3									#
		#	3			6								5
思い出を胸に		#	9											2
		#	#	#	#	2	2	0	0	5	#			#
		年間総時数：140												

4年フリー学習年間計画

平成5年度		平成7年度												
テーマ		計	国	社	算	理	図	音	家	体	通	特	ト	
めざせばくの学級わたしの学級		#											2	8
いちにのさあんでバトンパス		#	3		2									#
ぼくもわたしも編集長(1)		#	3											#
先生の先生こんにちはさようなら		#	5		1									9
ぼくもわたしも編集長(2)		#												#
おわくわくの部屋へようこそ		#				8								4
コンサートで楽しく		#	4	6										1
ぼくもわたしも編集長(3)		#	3		8	1	2							#
		#				8								4
ぼくもわたしも編集長(4)		#	6											#
思い出をありがとう		#						2						2
		#	#	#	#	2	2	0	0	5	#			#
		年間総時数：149												

平成9年度														
テーマ		計	国	社	算	理	図	音	家	体	通	特	ト	
わたしたちの千秋公園(春)		#			2									#
F1グランプリIN 附小		#	2		4									5
ボランティアことはじめ		#	4	2										#
		#												#
わたしたちの千秋公園(夏)		#	6		1									8
白抜き単元		#		6										1
わたしたちの千秋公園(秋)		#	6		1	2								9
すみよい秋田 環境調査隊		#	2	8	2	2								2
わたしたちの千秋公園(冬)		#	3	2		2								6
思い出いっぱい4年生		#	5					2						2
		#	#	#	#	2	2	0	0	5	#			#
		年間総時数：140												

5年フリー学習年間計画

平成5年度		平成7年度												
テーマ		計	国	社	算	理	図	音	家	体	通	特	ト	
5年生のよさを見つめて		#	4		3								2	5
つくろうばくらの宿泊研修		#		1		2								7
学年チャンピオン大会		#												8
フリー読書		#	6					2						4
		#	3											1
ゆかいな仲間の「むすびつき」		#	6	7	1									5
学年チャンピオン大会		#	5			6								5
学年駅伝大会/フリー読書		#	2	5										7
熱気球大会/創作カク		#			6									4
フリー読書		#	5					2						4
あなたにも「ありがとう」		#	7		3									4
学年チャンピオン大会		#	3											2
		#	#	#	#	9	2	2	0	0	5	#		#
		年間総時数：138												

平成9年度														
テーマ		計	国	社	算	理	図	音	家	体	通	特	ト	
レッグ少年自然の家へ		#	5			2	2							2
これが秋大附属小学校だ		#	4	6										6
お天気予報官になりたいパート		#	2		4	4								4
		#												#
みんな集まれ！附小まつり		#												1
花まるっ！秋田の伝統工芸		#	9	8										4
芸術の秋		#	2											#
自分を見つめて		#			6									7
お天気予報官になりたいパート		#	2	4	2									2
ありがとう6年生		#	4								2			2
		#	#	#	#	2	2	0	0	5	#			#
		年間総時数：136												

6年フリー学習年間計画

平成5年度		平成7年度												
テーマ		計	国	社	算	理	図	音	家	体	通	特	ト	
学年・学級づくり		#	4	2										2
ぼく、わたしの運動会		#	6	5										1
つくろう「ぼく、わたしの夢」		#	3			6								1
第1回「ぼく、わたしの主張」		#												#
めざせ東部地区チャンピオン		#	0											#
朗読発表会		#	7											2
思い出をつくろう会津仙台の旅		#	5	5										2
パンキン集会		#	8	4	2									2
第2回「ぼく、わたしの主張」		#	2		6									4
第3回「ぼく、わたしの主張」		#	7	3				2						2
ありがとう！附小		#	3		8			2						#
		#	#	#	#	2	2	0	0	5	#			#
		年間総時数：120												

平成9年度														
テーマ		計	国	社	算	理	図	音	家	体	通	特	ト	
さあはじめようぼくの私の思い出づく		#	6											1
今一番会いたい人見つけた		#	6											#
目指せ東部地区チャンピオン		#												1
		#												#
新附小フェスティバル		#	8											1
ぼくらの大運動会		#	8											1
思いっきり会津		#		5										1
手作り科学万博		#												3
楽しく学ぼういちにの算数		#			8									3
なるほど！ザ・ワールド		#	5	7										2
卒業に向けて		#	7					2	2					5
		#	#	#	#	2	2	0	0	5	#			#
		年間総時数：140												

ハッチの箇所は2学期担当を示す。ハッチの無い箇所は1学期もしくは3学期である。
平成5年度は授業形態が異なるため、テーマのみを記載した。

なっておらず、学年集団としての活動までには達していない状況であったと言える。このような実践の積み重ねから、学級の壁を取り払い、活動が外にひらかれていくということを、それ以降に目指すことになる。

3-5. 教科との関連

表1に示したように、平成6年度以降には「教科学習との関連を明らかにし、固定した発想ではなく、どこまでも柔軟な発想で運用する」というスタンスや、内容には「教科の基礎・基本が身に付くもの」というように、教科との関連に心がけていることがわかる。それは、表4にあるように、教育課程を維持する上で、各教科・領域からフリー学習への授業時間数の供出に伴い、その供出分の教科でのねらいも含めなければならないという背景と共に、それ以上に「子どもの学びが総合的になる」ように配慮する姿勢があったと言える。

例えば、平成9年度研究紀要に示されて第4学年の実践「ボランティアことはじめ-今から ここから ぼくらの勇気-」（表4参照）の学習計画を見ると、この単元は総授業時間数20時間であり、そのうち教科・領域が6時間、はとの時間（フリー学習）が14時間である。具体的な教科・領域からの授業時間数の供出は「国語（正確に伝えられるな1学期）」から2時間、「国語（「ニュースの時間」です2学期）」から2時間、「社会（安全なくらし1学期）」から2時間と示されている。さらに単元のねらいに関しては、「総合学習としてのねらい」のほかに、「教科・領域学習としてのねらい」という項目を設け、「〈国語〉・話す相手を意識して、話したいことの手がかりが分かるように話すことができる。・書き留めたメモや持ち帰った資料をいかして、相手によく分かる記録文を書くことができる。〈社会〉・交通事故を防ぐために地域には、工夫された様々な施設や設備があることを知る。」といったように、教科に即したねらいが記述されている。また学習内容に関しては、それぞれの活動内容をどの教科・領域と関連をもたせるかも明確に示している。例えば「新しい校舎や地域を調べて、からだの不自由な人々などのための施設や工夫を見つける」という活動のステップの1つ目に、社会の「安全なくらし」の内容が2時間割り当てられている。このように、活動内容に対応する教科・領域を示すことにより、教科との関連を丁

寧に捉えた学習構造を示している。

一方、教科を越えた視点としては、平成8年度研究紀要には、「健康で安全な生活」「人々との接し方」「公共物の利用」「生活と消費」「情報の伝達」「自然との触れ合い」「季節の変化と生活とのかかわり」「物の製作」「自分の成長」の9つの視点が、6年間の学びの中で深まり、広がるような単元内容を構成すべきことを提言している。

このように、教科との関連や、その後新たな総合的な学習の時間において指摘される「現代的な教育課題」を日常生活と関連づける視点を導入していたことがわかる。

4. まとめにかえて

本稿は、秋田大学教育文化学部附属小学校における「総合的な学習の時間」の研究開発の経緯をまとめることを目指し、平成3～10年度までのその概要を示し、まとめたものである。ここから学ぶべきものは、教科学習との関連であろう。当時はフリー学習の時間を確保する方策としての授業時間数の供出ということが前面に出ている感はあるが、そこには総合的な学習の時間と教科学習とを明確に関連付けた実践が行なわれていたという点である。この点を踏まえて、平成30年3月に告示された学習指導要領を見ると、いくつかのヒントがここにあると言える。

例えば、新しい学習指導要領では、総合的な学習の時間に関して、各学校では育成すべき資質・能力を明確に示すことを強く求めている。それらは単に資質・能力のリストを上げるだけでは本来のねらいは達成できない。教科で培った力との関連を確かめながら、総合的な学習の時間においてどのような本質的な力量の形成を目指すのかという教師の構成力が問われていると言える。その実践事例が3-5で示した平成8年度あたりから多く見られるようになった教科との検討である。総合的な学習の時間の設定においては、資質能力の育成の明示はもとより、日々教室での学びの連続という視点から、教科学習との関連を、分析あるいは分担というような視点の重要性が改めて確認指摘できる。

なお、参考文献には、引用以外に表1を作成する際に、参照することのあった文献資料等もリストとして掲載した。

謝辞

本研究にあたり全面的にご協力下さった秋田大学教育文化学部附属小学校の現教職員ならび旧教職員の皆様に、深謝いたします。

また、本研究の一部はJSPS科研費JP16K12780の助成を受けたものです。

参考文献

- 秋田大学教育学部附属小学校（1994）『豊かな子ども文化をひらく学校－子どもが有用感をもつ学習－』（平成6年度研究紀要）
- 秋田大学教育学部附属小学校（1996）『豊かな子ども文化をひらく学校－子どもが有用感をもつ単元の開発－』（平成7年度研究紀要）
- 秋田大学教育学部附属小学校（1997）『豊かな子ども文化をひらく学校〔第3次〕－子どもが有用感をもつ単元の開発－』（平成8年度研究紀要）
- 秋田大学教育学部附属小学校（1998）『豊かな子ども文化をひらく学校〔第4次〕－子どもが有用感をもつ単元の開発－』（平成9年度研究紀要）
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（1999）『豊かな子ども文化をひらく学校〔第5次〕－子どもが有用感をもつ教育過程の開発と実践－』（平成10年度研究紀要）
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（1999）『豊かな子ども文化をひらく学校〔第6次〕－子どもが有用感をもつ教育課程の開発と実践－』（平成11年度研究紀要）
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2007）『感性を高め、豊かな人間性を育む学校－創造的に人とかわる力を高める授業づくり－』（平成19年度研究紀要）
- 秋田大学教育学部附属小学校（1995）『豊かな子ども文化をひらく学校－子どもが有用感をもつ単元の開発－』（平成7年度公開研究協議会要項）
- 秋田大学教育学部附属小学校（1998）『豊かな子ども文化をひらく学校－子どもが有用感をもつ単元の開発－』（平成8年度公開研究協議会要項）
- 秋田大学教育学部附属小学校（1997）『豊かな子ども文化をひらく学校〔第4次〕－子どもが有用感をもつ単元の開発－』（平成9年度公開研究協議会要項）
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（1998）『豊かな子ども文化をひらく学校〔第5次〕－子どもが有用感をもつ教育過程の開発と実践－』（平成10年度公開研究協議会要項）
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（1999）『豊かな子ども文化をひらく学校〔第6次〕－子どもが有用感をもつ教育課程の開発と実践－』（平成11年度公開研究協議会要項）
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2000）『確かな力で編み上げる豊かな学び〔第1次〕－ともにつくる動的な教育課程－』（平成12年度公開研究協議会要項）
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2001）『確かな力で編み上げる豊かな学び〔第2次〕ともにつくる動的な教育課程』（平成13年度公開研究協議会要項）
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2002）『確かな力で編み上げる豊かな学び〔第3次〕－ともにつくる動的な教育課程－』（平成14年度公開研究協議会要項）
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2003）『表現活動を軸にした「学びのふるさと」づくり』（平成15年度公開研究協議会要項）
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2001）『みちしるべ』（平成13年度実践・研究計画）
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2002）『みちしるべ』（平成14年度実践・研究計画）
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2003）『みちしるべ』（平成15年度実践・研究計画）
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2006）『みちしるべ』（平成18年度実践・研究計画）
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2007）『みちしるべⅠ』（平成19年度実践・研究計画）
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2007）『みちしるべⅡ』（平成19年度実践・研究計画）
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2009）『みちしるべⅠ』（平成21年度実践・研究計画）
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2010）『みちしるべⅡ』（平成22年度実践・研究計画）
- 秋田大学教育学部附属小学校（1995）『子どもが有用感をもつフリー学習・活動のあり方を求めて』
- 秋田大学教育学部附属小学校（1993）平成5年度公開研究協議会当日配付資料「教育課程一般フリー学習・活動」
- 秋田大学教育学部附属小学校（1197）平成9年度公開研究協議会当日配付資料「公開研究協議会本時

案集」

- 秋田大学教育学部附属小学校（1997）平成9年度公開研究協議会当日配付資料「フリー学習分科会資料子ども一人一人の自由で主体的な学習意欲に基づいた追求学習の創造」
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（1998）平成10年度公開研究協議会当日配付資料「総合的な学習分科会」
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（1998）平成10年度公開研究協議会当日配付資料「公開研究協議会本時案集」
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（1999）平成10年度学習指導研究会当日配付資料「学習指導研究会豊かな子ども文化をひらく学校－子どもが有用感をもつ教育課程の開発と実践－」
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（1999）平成11年度公開研究協議会当日配付資料「公開研究協議会総合的な学習部会」
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2001）平成12年度学習指導研究会当日配付資料「学習指導研究会確かな力で編み上げる豊かな学び－ともにつくる動的な教育課程－」
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2001）平成13年度公開研究協議会 当日配付資料「本時案集」
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2002）平成13年度学習指導研究大会資料「秋田「総合的な学習」研究会 学習指導研究大会」
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2002）平成14年度公開研究協議会当日配付資料「公開研究協議会本時案集」
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2003）平成14年度公開研究協議会 当日配付資料「公開研究協議会Ⅱ要項」
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2003）平成14年度公開研究協議会 当日配付資料「公開研究協議会Ⅱ本時案集」
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2004）平成15年度公開研究協議会 当日配付資料「公開研究協議会Ⅱ要項」
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2005）平成16年度公開研究協議会 当日配付資料「公開研究協議会要項」
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2005）平成16年度公開研究協議会 当日配付資料「公開研究協議

会本時案集」

- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2006）平成17年度公開研究協議会 当日配付資料「公開研究協議会要項」
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2007）平成18年度公開研究協議会 当日配付資料「公開研究協議会要項」
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2007）平成18年度公開研究協議会 当日配付資料「公開研究協議会本時案集」
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2008）平成19年度公開研究協議会 当日配付資料「公開研究協議会要項」
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2008）平成20年度公開研究協議会 当日配付資料「公開研究協議会要項」
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2008）平成20年度公開研究協議会 当日配付資料「公開研究協議会本時案集」
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2009）平成21年度公開研究協議会 当日配付資料「公開研究協議会要項」
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2009）平成21年度公開研究協議会 当日配付資料「公開研究協議会本時案集」
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2010）平成22年度公開研究協議会 当日配付資料「公開研究協議会要項」
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2010）平成22年度公開研究協議会 当日配付資料「公開研究協議会本時案集」
- 秋田大学教育文化学部附属小学校（2011）平成23年度公開研究協議会 当日配付資料「公開研究協議会要項」

Summary

The authors show the transition on the research and development of "the Period for Integrated Studies" in the Elementary School attached Faculty of Education and Cultures, Akita University. As a result, it is shown that there is a clue to examination of "qualities and abilities" which is called for in the new course of study based on relation with subjects, modern educational issue,

and everyday life.

Key Words : Period for integrated studies, Free studies and activities, Research and development, Focused on children

(Received January 7, 2019)